

伊集院保健所感染症情報

2026年第33週（令和8年8月10日～令和8年8月16日）

【お問い合わせ先】 ☎899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/index.html>

定点把握感染症

管内流行発生警報発令！：A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点医療機関【ARI2（インフルエンザ・COVID）、小児科1、基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報 基準値	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息		第30週	第31週	第32週	第33週	先週からの増減	第32週	前週からの増減
ARI（急性呼吸器感染症）	—	—	—	67.00	81.50	109.50	75.00	↘	47.14	↗
インフルエンザ	30	10	10	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.16	↗
COVID-19	—	—	—	5.50	3.50	2.00	0.50	↘	2.02	↘
咽頭結膜熱	3	1	—	1.00	0.00	0.00	0.00	→	0.52	↗
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—	5.00	6.00	10.00	6.00	↘	2.16	↗
感染性胃腸炎	20	12	—	1.00	0.00	1.00	0.00	↘	2.84	↘
水痘	2	1	1	1.00	0.00	0.00	0.00	→	0.35	↗
手足口病	5	2	—	3.00	2.00	2.00	1.00	↘	0.58	↗
伝染性紅斑	2	1	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.13	↗
突発性発しん	—	—	—	1.00	0.00	0.00	1.00	↗	0.42	↗
ヘルパンギーナ	6	2	—	0.00	1.00	0.00	0.00	→	0.13	↘
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.06	↗
R S ウイルス感染症	—	—	—	1.00	2.00	7.00	1.00	↘	2.00	↘

※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし、注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし

TOPIC 感染症と熱中症に気をつけましょう！

[感染症予防対策と熱中症予防]

- ・咳などの症状があるときは、人混みを避け、人と会うときはマスクを着用しましょう。
- ・発熱や咳などの症状があるときは、高齢者や基礎疾患をお持ちの方、妊婦さんに会いに行くことは控えましょう。
- ・肉はよく焼いて食べましょう。
- ・蚊やマダニに刺されないように、長袖・長ズボンを着用しましょう。
- ・石鹸でよく手を洗いましょう。また、こまめに手指消毒を行いましょう。
- ・十分な睡眠と栄養のバランスの良い食事を取り、体力作りをしましょう。
- ・エアコンや扇風機を使い、のどが渇かなくてもこまめに水分を取りましょう。
- ・エアコンの使用時も、定期的に換気をしましょう。

● TOPIC

旅行から帰って 何か変？ — 旅行後の健康チェック

海外旅行から帰ってきて、何らかの体調不良を訴える方は、実に全旅行者の数十パーセントに及ぶと言われています。中でも下痢などの胃腸症状、皮膚の異常、咳、そして発熱がよくみられる症状です。自然に回復することも多いのですが、特殊な感染症による体調不良で、感染症に対して治療が必要な場合もあります。

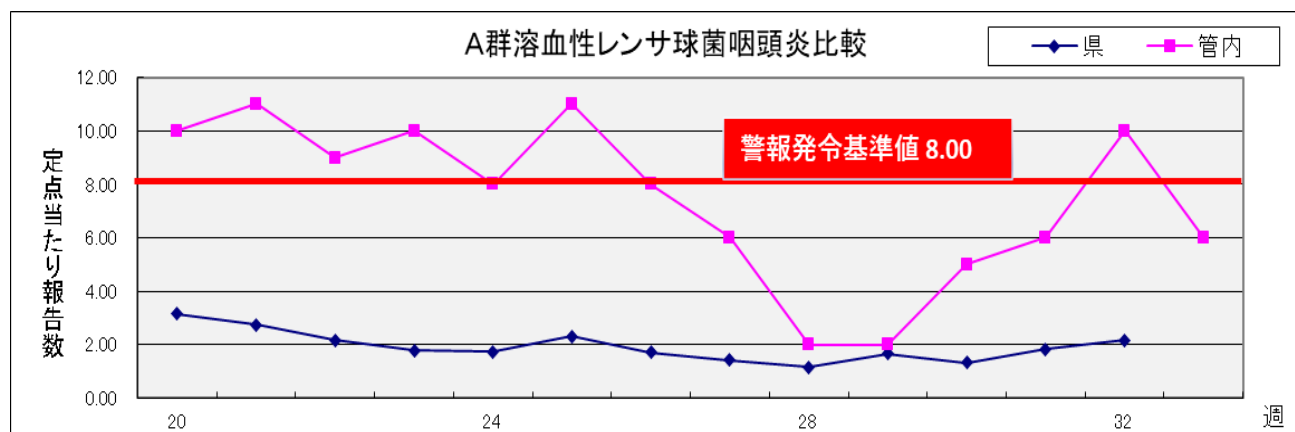
海外旅行、特に発展途上国を旅行した後、少なくとも6か月の間は、旅行関連の感染症が生じる可能性があることを覚えておきましょう。医療機関にかかる際には、必ず海外旅行したことを教えてください。デング熱やリケッチア感染症による症状は、ほぼ帰国後3週間以内にみられますが、マラリアなどの寄生虫による感染症や一部の細菌による感染症の症状は、数週間から数か月あるいは数年たってから生じることもあります。

海外旅行後の体調不良には、思わぬ感染症が潜んでいる可能性があります。
早めに医療機関を受診しましょう。



● 注意すべき感染症

・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（流行発生警報発令中）



第33週の伊集院保健所管内におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、6人でした。年齢別では、5歳（2人）、2歳・3歳・4歳・6歳（各1人）の報告でした。

感染すると、2～5日の潜伏期間を経て、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛で発症し、舌が莓のように赤くザラザラとした状態になることもあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」が主な感染経路です。

患者と濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○学校における感染症による出席停止の状況8/10～8/16（出典：学校等欠席者・感染症情報システム）
今週の報告は、ありませんでした。